

低コスト林業研修会について ～再造林に係る作業負担の軽減等の可能性～

1 目的

気仙地方林業振興協議会では、再造林に係る作業負担の軽減及び低コスト化の可能性について見識を深めるため、標記研修会を開催しましたので、その概要を報告します。

2 研修会の内容

令和6年8月5日(月)、陸前高田市森林組合会議室及び同市竹駒町において、市町及び森林組合、林業事業者、三陸中部森林管理署、大船渡農林振興センター職員を含め16名参加のもと、標記研修会を開催しました。

(1) 講演

「カラマツの下刈り省略について」と題し、再造林(地拵～下刈)にかかる費用のうち、約半分を占め、炎天下で過酷な作業である下刈り省略について、沿岸広域振興局農林部新井上席林業普及指導員から県内で実施した調査結果を踏まえたお話^{*}をいただきました。

※下刈回数削減がカラマツの生残や成長に与える影響
岩手県林業技術センター研究成果速報 No.309

講演の状況



(2) 現地検討

陸前高田市森林組合担当者から植栽当時の状況を説明してもらい、カラマツ林の育成において下刈り省略が可能か参加者全員

により現地検討を行いました。

現地会場の林況(R5.11月撮影)



現地検討会の会場は、平成27年度に気仙地方林業振興協議会で一貫作業システム現地検討会を開催した場所で、機械地拵えにより枝条を集積せずにコンテナ苗を植栽(2,000本/ha)、保育作業(下刈り)なし、カラマツ9年生の造林地です。

事前のプロット調査では、平均樹高6.8m、胸高直径は6.5cmで成立本数は2,000本/ha。

被圧木や植栽木がなくなっている箇所も一部確認されたものの、十分にカラマツ林として成林が期待できる状況でした。

参加者からは「枝条を集める地拵えは雑木や草本の繁茂も促進させているのではないか」「下刈りしないことで、シカの食害リスクの低減にもつながるのではないか」等、回数削減以外の効果についての発言もあり、活発な意見交換を行うことができました。

3 今後に向けて

当センターでは、再造林時における作業負担軽減に向けた研修会の開催など支援していくこととしております。